

施策評価調書(25年度実績)

施策コード | I-7-(1)

政策体系	施策名	人権を尊重する社会づくりの推進	所管部局名	生活環境部	長期総合計画頁	63
	政策名	人権を尊重し共に支える社会づくりの推進	関係部局名	生活環境部、教育庁		

【Ⅰ. 主な取り組み】

取組No.	①	②	③	④
取組項目	人権行政の推進	人権教育・啓発の推進と環境整備	人権教育における指導の充実	新たな人権問題への対応
取組No.	⑤			
取組項目	同和対策の推進			

【Ⅱ. 目標指標】

指標	関連する 取組No.	基準値		25年度			26年度	27年度	目標達成度(%)										
		年度	基準値	目標値a	実績b	b/a	目標値	目標値	25	50	75	100	125						
i 人権問題講演会・研修会・学習会などへの参加経験者の割合(%)	②④⑤	H15	45	60.7	52.9	87.1%	62.3	64											
ii 人権教育推進のファシリテーター養成数(人)	②	H16	30	150	191	127.3%	150	168											
iii 体験的参加型学習を受講した児童生徒の割合(%)	②③	H22	80.8	92.2	85.8	93.1%	96.0	100											

【Ⅲ. 指標による評価】

評価		理由等	平均評価
i	達成 不十分	平成20年と25年の県民意識調査結果を比較すると、人権に関心がある県民や講演会・シンポジウム・研修会を効果的な啓発手法と考える県民が減少し、広報誌・パンフレット・ポスター、インターネット・eメールを利用した啓発広報、展示会を効果的と考える県民が増えている。同和問題・女性・高齢者・子ども・障がい者など重要課題分野についての調査結果は良くなっており、人権を尊重する社会づくりは進んでいる。	概ね達成
ii	達成	新聞等の広報により、広く県民にファシリテーター及び指導者の必要性が周知され、受講者の増加とともに、養成数が大幅に伸びた。	
iii	概ね 達成	体験的参加型学習の手法について、人権教育を意識しながら全ての授業で実施することの意義が周知され、実施率が伸びた。	

【Ⅳ. 指標以外の観点からの評価】

取組 No.	指標以外の観点からの評価
①	・人権施策の重要な柱である相談・支援・権利擁護の具現化として、人権問題に関する相談機関・団体の連携を深めるため「おいた人権相談ネットワーク協議会」の構成団体(76団体)に情報提供と相談員研修を実施した。
②	・県が養成した人権問題研修講師派遣実績は25年度144回で9,936人が受講した。 ・大分県人権問題講師団の養成研修を行い、24年度より3名増え41名となり、人権教育の環境整備が進んだ。
③	・コミュニケーション能力を身に着けるための学習が多くの学校で行われ、自他共に大切にしようとする人権感覚の育成が進んだ。
④	・人権問題研修講師養成講座及び市町村人権啓発担当者研修でセクシュアル・マイノリティを取り上げ、県民啓発に繋げた。
⑤	・県下隣保館への年間来館者数は約10万人、相談件数は約2,000件である。継続的に地域社会における社会福祉等に関する総合的な事業及び人権・同和問題の解決のための活動を積極的に行っている。

【Ⅴ. 施策を構成する主要事業】

取組 No.	事業名(25年度事業)	事業コスト(千円)	26年度の実施状況	主要な施策の成果掲載頁
②	人権啓発推進事業	48,064	継続	100

【Ⅵ. 施策に対する意見・提言】

○大分県人権尊重社会づくり推進審議会(H25.12)
 ・有名な方を講演に呼んで多くの人を集めるやり方は効果が薄く、少人数でも確実に気づきにつながるロールプレイングとかワークショップ等が有効である。
 ・小、中学校、高等学校を含め義務教育期の啓発教育に早急に取り組む必要がある。
 ・意識調査結果を基に今後5年間で有効なものとなる施策を展開すること。

【Ⅶ. 総合評価と今後の施策展開について】

総合評価	施策展開の具体的内容
B	<ul style="list-style-type: none"> ・25年度に実施した「人権に関する県民意識調査」の結果を踏まえ、実情に合わせた人権尊重施策の改正(第3次計画)を行う。 ・人権に関心のない層の興味を引くため、人権・同和問題啓発において、“ゆるキャラ”(こころちゃん)を活用する。 ・研修会や学習会に参加しない県民への啓発を行うため、人権啓発フェスティバルを休日にガレリア竹町で開催する。 ・県ウェブサイトでわかりやすく人権を解説するページを作成する。 ・校内研修に指導主事を派遣し、体験的参加型学習の意義と効果について周知を図る。 ・公立小・中学校6校、県立学校2校を研究指定校とし、体験的参加型学習の学習サイクルの「話し合い」「反省」「一般化」の過程について指導を徹底し、充実を図る。